



のりもの大好き望亜君です!

中田新田 高橋良子さん 23歳

4月に誕生日を迎え1歳3か月になり、歩くこともだいぶ上手になった望亜君です。

最近は、家の中で遊ぶより外に出て土や小石、雑草などに興味を示しています。小さい指先で小石を拾う望亜君は、とても愛くるしいです。また、車に乗ると運転席に座り、ハンドルを回しライトをつけたりして、なかなか運転席から離れません。いろいろなことに興味を示し、じっとしていることがなく、元気でわんぱくな男の子です。

子育てをしていくことで子どもの新しい発見ができて、とても楽しい毎日を過ごさせてもらっています。将来はどんな子に育っていくのでしょうか?

とにかく優しさ、人を思いやる気持ちだけは忘れない大人になってほしいと願っています。



オートバイに乗った望亜くん(1歳3か月)

マイカーデビューのバラの花に魅せられて

私は花が大好きで、かなり前から四季折々の花を植えて楽しんでいます。特にバラの花はたくさんの品種があり、花の



形や色香といった魅力に私はとりこになりました。最初は花壇でバラづくりを楽しんでいましたが、庭の植木が大きくなり、日当たりと風通しが悪く、病気や害虫の発生が多くなり、美しい花が咲かなくなってきました。そこでつるバラに切りかえて、フェンス及びパーゴラ仕立てにすれば日当たりや風通しの条件がよくなると考え、以後15年余りつるバラづくりを楽しんでいます。



緑町の伊東誠治さん(69歳)

長い年月、同じバラが毎年咲き続ける生命力に感動させられています。通る人に、「今年もきれいに咲きましたね」と言われるとうれしくなって、秋バラの準備に取りかかろうと思っています。

KOGA 万華鏡

写真のような絵

右図の「飛行之器風舟之図」、問いかけるまでもなく、熱気球であることがわかります。では左図は? 注釈に「海底に沈たる物を取あげる器也」とありますが...

図版は、いずれも鷹見泉石収集品のひとつ、江戸後期を代表する銅版画家、松本保居(1786~1867)のエッチングによる作品です。エッチングは、

西洋で発明された印刷法のこと。腐食銅版画とも呼ばれます。日本では、天明3年(1783)、司馬江漢が



鷹見泉石の収集した銅版画

はじめその制作に成功、以後、その写実性から新しい情報の媒体として、泉石のような識者たちにもはやされました。蛇足ながら、泉石は、この銅版画創製の江漢とも交流があり、その作品も入手しています。

「鷹見泉石の集めた銅版画」もので、いつごろのはなしなのでしょう。どうも眉唾ではないのか、という向きもあるかもしれません。ところが、この「器」、「ダイビングベル」なるもの、いわば潜水艦のはじまりです。17世紀末、イギリスで発明され、立派に実用化された器具なのでした。潜水鐘の中にいる二人が海底の大砲を回収しようとしているさまがわかります。

さて、冒頭の問いに戻りましょう。図を見ると、釣り鐘のようなかたちをした器の中に、異国情緒あふれる風情の人たち。いったいどの国の

精緻な表現と優れた写実性を好んで、泉石は、本図のほかにも多数の銅版画を収集しています。あるいは、こうした画が、泉石の西洋趣味を助長する扉であったのかもしれない。(鷹見泉石の収集したエッチング作品は、開催中のテーマ展「鷹見泉石の文物」でごらんになれます。7/21)